

東北大学災害科学国際研究所シンポジウム(第 84 回 IRIDeS オープンフォーラム)

「関東大震災 100 年の節目に考える『これからの防災』」を開催しました (2023/9/28)

テーマ：関東大震災、東日本大震災
会場：災害科学国際研究所（仙台市）

今から 100 年前に起きた関東大震災は、東京・神奈川などの被災地を中心に議論されることが主でしたが、その影響は被災地をはるかに超え、日本全国、海外にまで及ぶものでした。また、これまで日本の災害対応は、大震災が発生するたびに変化を遂げてきました。そのため、関東大震災・東日本大震災をはじめとする過去の災害の教訓を踏まえて広い視野で議論し、次の災害に備えていくことが重要です。

この問題意識のもと、災害科学国際研究所は 9 月 28 日（木）13 時～16 時、1923 年関東大震災および 2011 年東日本大震災の理解と教訓について議論し、社会の防災力向上を目指すシンポジウム「関東大震災 100 年の節目に考える『これからの防災』」（第 84 回 IRIDeS オープンフォーラム）をハイブリッド開催しました。

シンポジウム前半では“次の関東大震災”への備えにつながる特別講演および最新の研究発表が行われ、後半では「1923 年関東大震災と 2011 年東日本大震災の教訓を、次の災害にどう生かすか」をテーマに、学際的な討論を行いました。

本シンポジウムの内容と登壇者は以下の通りです。

総合司会：石澤堯史助教

1. 開会挨拶 栗山進一 所長
2. 特別講演 （座長：小野裕一 副所長）
 - 遠田晋次 教授（陸域地震学・火山学研究分野）
「関東大震災 100 年の節目で考える『首都直下地震』とは」
 - 村尾修 教授（国際防災戦略研究分野）
「1923 年関東大震災以降の首都圏拡大状況と都市リスク」
3. 最新の研究発表 （座長：泉貴子 所長補佐）
 - 高橋尚志 助教（陸域地震学・火山学研究分野）
「1923 年関東地震に伴う斜面崩壊と河川流域におけるその長期的なインパクト」
 - 秋富慎司 学術研究員（レジリエント EICT 研究推進オフィス）
「東日本大震災の解析と世界標準から見た危機管理の在り方について」
 - 保田真理 プロジェクト講師（地震津波リスク評価（東京海上日動）寄附研究部門）、
齋藤玲助教（認知科学研究分野）、邑本俊亮 教授（認知科学研究分野）
「学校防災教育における防災出前授業の現在と未来」
 - 鎌田健一 特任教授（地震津波リスク評価（東京海上日動）寄附研究部門）
「関東大震災と地震保険の発展」
 - 川内淳史 准教授（歴史文化遺産保全学分野）、小野裕一 教授（2030 国際防災アジェンダ推進オフィス）、中鉢奈津子 特任准教授（広報室）、吉野賢 事務局長（世界防災フォーラム事務局）、小野天椰 共同研究員（2030 国際防災アジェンダ推進オフィス）
「関東大震災と日米関係：今後の国際防災協力への示唆」
4. 討論「1923 年関東大震災と 2011 年東日本大震災の教訓を、次の災害にどう生かすか」
登壇者：遠田晋次 教授、榎田竜太 准教授（地震工学研究分野）、佐藤大介 准教授（歴史文化遺産保全学分野）、ゲルスタ ユリア 助教（災害文化アーカイブ研究分野）、濱家由美子 助教（災害精神医学分野）、ファシリテーター：栗山進一 所長
5. 閉会挨拶 越村俊一 副所長

本シンポジウムの企画・運営は、関東大震災タスクフォースおよび IRIDeS オープンフォーラムWGメンバー（栗山進一所長、遠田晋次教授、中鉢奈津子特任准教授、石澤堯史助教、高橋尚志助教、富田史章助教、林宏典助教、鈴木通江職員、福島愛子職員、小森光職員）が協力して行いました。

当日は、会場・オンライン双方を含めて全国から約 160 人の参加があり、「関東地方を超えた広いスコープで関東大震災を捉えることができた」「シニアと若手の双方の発表が聞けて良かった」「非常に良かった」などの感想をいただきました。

文責：広報室



遠田教授



村尾教授



高橋助教



秋富学術研究員



保田プロジェクト講師



鎌田特任教授



川内准教授



会場の様子



討論の様子

左から 遠田教授、榎田准教授、佐藤大介准教授、ゲルスタ助教、濱家助教、栗山所長